

# 囲まれた外部空間をもつ商業建築作品の設計論における都市イメージ

A Study on the Image of the City in Design Theories of Commercial Buildings with Enclosed Outdoor Spaces by Contemporary Japanese Architecture

奥山研究室 09M17110 金 優希 (KIM, Woohee)

## 1. 序

都市部に建つ中規模商業建築では、建物群によって囲まれた外部空間をもつ形式が多くみられる。こうした形式による商業建築作品の設計論では、「街そのもののような状態をつくる」といったアナロジー表現<sup>1)</sup>を用いて建築に多様なイメージが投影されることが多い。このような表現のみられる設計論は、都市を構築するリアリティを見出しにくい現代の状況において、建築家の理想とする都市像を捉えることができる題材のひとつと考えられる。そこで本研究では、囲まれた外部空間をもつ商業建築作品の設計論から、都市に対する認識とアナロジー表現とを抽出し、それらの内容を合わせて検討することにより、建築家をもつ都市の理想とするイメージの一端を明らかにする。資料は、建築専門誌の1つである新建築誌上に発表された商業建築作品<sup>2)</sup>のうち、都市化された地域に立ち、原則3辺以上を建物に囲まれた外部空間をもつ156作品の発表に際して掲載された論説とする。

## 2. 都市認識

### 2-1 都市認識の意味内容

資料とする論説から、現実の都市環境あるいは具体的な立地に伴う周辺環境に関する建築家の認識(以下、都市認識<sup>3)</sup>)として明確に読み取れる箇所を抽出し、その内容を比較検討した(図1、図2)。その結果、それらは街並みやそれを構成する建物の実体的な特徴などを述べたもの(『物的内容』)と、都市の活気など実体的ない側面を述べたもの(『現象的内容』)とで捉えることができた。『物的内容』では、都市空間の均質性や無秩序な状態を述べる内容が多くみられ、街並みや都市の全体的な見え方を述べる〈都市風景の描写〉、都市における構築物の構成や密度を述べる〈都市構築物の構成〉というまとまりが

みられた。『現象的内容』では、都市開発の状況や賑わいを述べる〈都市の発展性〉、場所のグレードやファッションの街といった立地の特性を述べる〈都市の機能性〉、社会の混乱や短期的な消費といった社会状況を述べる〈都市現象の雰囲気〉、都市空間に応じたライフスタイルや都市における人々の感覚を述べる〈都市での生活習慣〉というまとまりがみられた。なかでも〈都市の発展性〉が多くみられた。

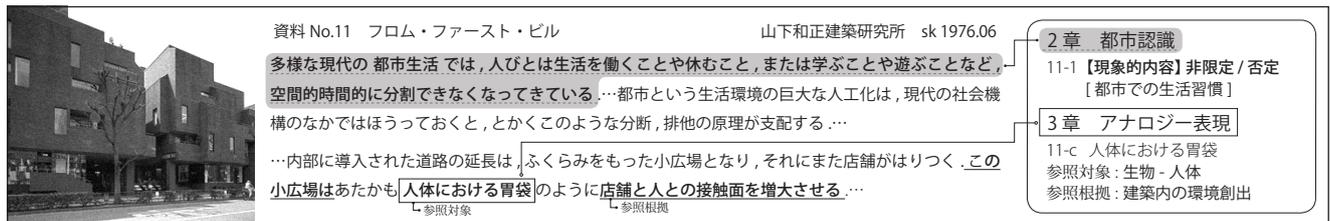
### 2-2 都市認識の限定性と評価

前節で検討した都市認識が述べられる際、その意味内容に関わらず、設計された建物の周辺地域に限定して都市環境を語るもの(以下、《限定》)と、一般的な都市環境に対する認識を述べるもの(以下、《非限定》)とがみられる。そうした事柄を都市認識の限定性と呼び、検討したところ(表1)、およそ7割強が《限定》であった。

また、都市環境が肯定的に語られ、価値や特徴が述べられるか(肯定)、都市環境が批判的に語られるか(否定)を都市認識の評価と呼び、検討・整理した(表2)。

### 2-3 資料毎の都市認識の組合せ

次に、複数の都市認識をもつ資料が多くみられたことから、それらの意味内容の組合せを検討した(表3)。その結果、語られる都市認識が物的内容のみであるもの(以下、〈物的〉認識)が59資料、現象的内容のみであるもの(以下、〈現象的〉認識)が48資料、両方の意味内容をもつもの(以下、〈物的+現象的〉認識)が31資料であった。それぞれの意味内容の組合せにおける限定性と評価の割合を示した(表3)。これより〈物的〉認識、〈現象的〉認識の資料では、《限定》の場合は肯定的な内容が多く、《非限定》の場合は、否定的な内容が比較的多い傾向がみられた。



資料 No.11 フロム・ファースト・ビル 山下和正建築研究所 sk 1976.06

多様な現代の都市生活では、人びとは生活を働くことや休むこと、または学ぶことや遊ぶことなど、空間的・時間的に分割できなくなってきた。…都市という生活環境の巨大な人工化は、現代の社会機構のなかではほうっておくと、とかくこのような分断、排他の原理が支配する…

…内部に導入された道路の延長は、ふくらみをもった小広場となり、それにまた店舗がはりつく。この小広場はあたかも人体における胃袋のように店舗と人との接触面を増大させる…

2章 都市認識  
11-1 【現象的内容】非限定/否定  
[都市での生活習慣]

3章 アナロジー表現  
11-c 人体における胃袋  
参照対象: 生物・人体  
参照根拠: 建築内の環境創出

図1 分析例

### 3. アナロジー表現

資料とする論説には、既に検討した都市認識以外に、分析例で示した「この小広場はあたかも 人体における胃袋」(図1)のように、何らかの事柄を参照する表現がみられる。こうしたアナロジー表現は、そこで問題とされる建築空間に何らかのイメージを付与させているといえる。ここでは、分析例の「人体における胃袋」にあたるものを参照対象とし、「小広場は店舗と人との接触面を増大させる」にあたるものを参照根拠として、それぞれ抽出し検討する。

#### 3-1 アナロジー表現の参照対象

抽出された参照対象の内容を比較検討し、[自然]、[生物]、[活動]、[物品]、[機械]、[抽象]、[建築]、[都市]の8つに分類して整理した(表4)。またこれらはその内容から、[自然][生物][活動]を生態的対象、[物品][機械]を静物的対象、[抽象]を抽象的対象、[建築][都市]を建築的対象とした4つの分類で位置づけられ、次章の分析項目とする。参照対象は、具体的な建築や特定の建築空間を参照する[建築]と、広場や街路など都市要素や

固有の都市といった都市全体を示す参照する[都市]が非常に多くみられた。ここから、囲まれた外部空間には、都市要素的な性格を付加されやすく、また囲まれることで建築内に都市的状況が創り出されやすいことが考えられる。その他では、[物品]や芸術や文化・言葉といった[抽象]を参照するものが多くみられた。

#### 3-2 アナロジー表現の参照根拠

次に、抽出された参照根拠の意味内容を比較検討した(図3)。その結果、建築の形態や構成など敷地内に限った内容を根拠とするもの(以下、【敷地内環境】)、周辺地域の反映など敷地外の事柄を根拠とするもの(以下、【都市環境】)、その両方の内容を合わせた事柄を根拠とするもの(以下、【敷地内×都市】)という3つで大枠捉えられた。【敷地内環境】が最も多くみられ、そのなかでも典型例に示したような、建築内外の連続性や建物内の回遊性を述べる内容が多かった。次に【都市環境】が多くみられ、そこでは街とのつながりの場として囲まれた外部空間を捉えるといった内容が多くみられた。また、【敷地内×都市】の該当数は少ないが、「この谷が生命感

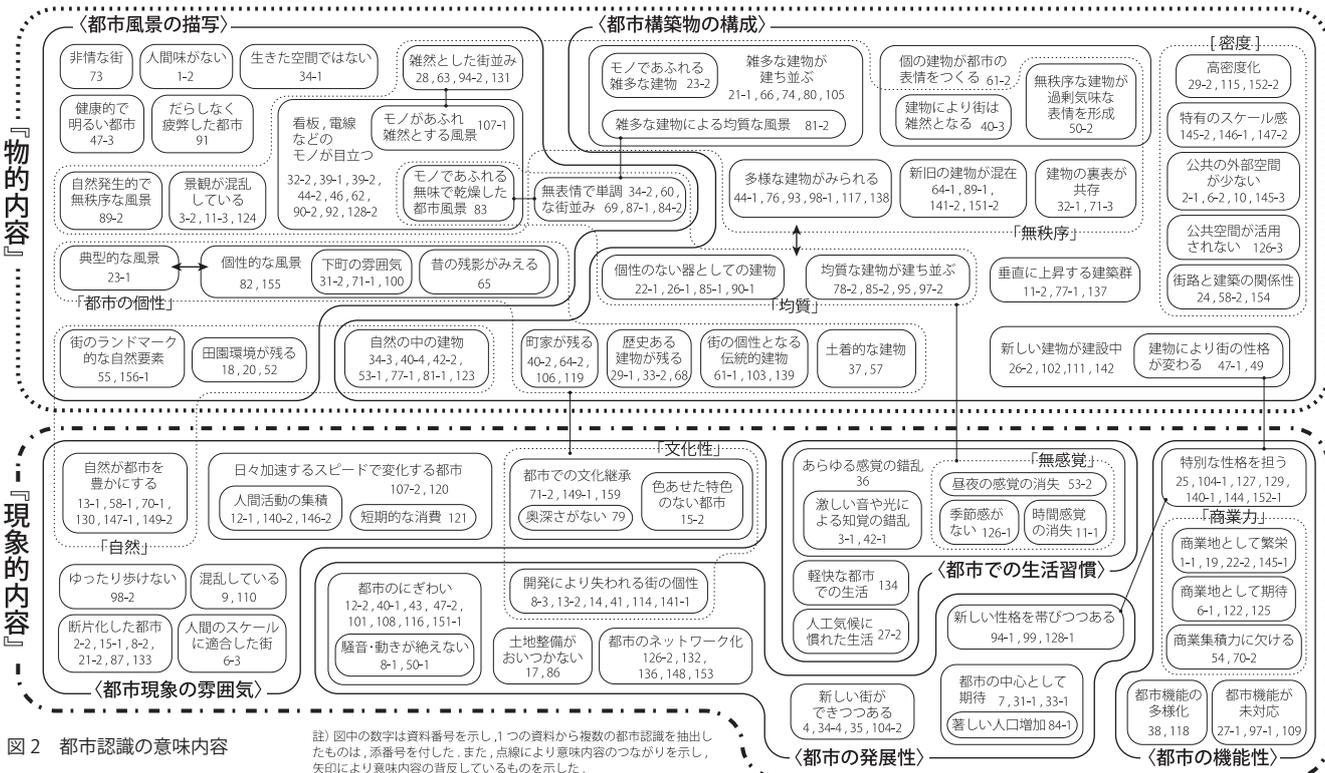


図2 都市認識の意味内容

註) 図中の数字は資料番号を示し、1つの資料から複数の都市認識を抽出したものは、添番号を付した。また、点線により意味内容のつながりを示し、矢印により意味内容の背反しているものを示した。

表1 都市認識の限定性

限定	153	非限定	50
No.146 sarugaku [物的-限定-肯定] 周辺は戸建の住宅や小規模な店舗がひしめき合っており、特有のスケール感や密度感を形成している。		No.36 PAVILION [現象的-限定-否定] 近代都市が獲得した均質空間はそのままでは単調で退屈きまりない…	

表2 都市認識の評価

肯定	100	否定	103
No.40 TIME'S [物的-限定-肯定] 周辺にはいまだに木造の町屋が残っており京情緒を漂わせている…景観の保存と同時に…		No.10 トビレックプラザ [物的-限定-否定] 都市に魅力ある遊び場と水がなくなったことを痛感させられる…都市に緑と水と太陽を取り戻す…	

表3 資料毎の都市認識の組合せ

	〈物的〉認識 59			〈物的+現象的〉認識 31			〈現象的〉認識 48		
	限定	非限定	両方	限定	非限定	両方	限定	非限定	両方
肯定	24	1	1	6	0	1	20	3	1
否定	16	6	4	1	1	7	11	7	3
両方	2	0	5	7	0	8	3	0	0

註) 数字は資料数を示す。

表4 アナロジー表現の参照対象

生態的対象	自然	自然現象 13	水 氷 滝 波 下草 雨 緑 植物群落 川の流れ 2
	地形 8	森 2 山 土 川 谷 洞窟 海	
	天体 6	宇宙 3 超空間 天 真空の中	
生物	動物 8	熱帯魚 魚 白鳥 虫 受精卵 消化器官 触手 貌	
	植物 3	樹木 枝 2	
人体 3	人体の胃袋 人肌 人の両手		
活動	料理 2 病気 2 夢 感情 証人 フェッション 化粧 舞踏 他人に接触 押し 引く 打つ 浴衣を羽織る 精妙な事件		
静物的対象	物品 26	薬 2 ケーキ群 スカウト ナフ 製品 混成品 玩具箱 宝石箱 宝石 万華鏡 折り紙 彫刻 レイフ 絵具 イーゼル キャンバス ドレス レース 編み目 ベル 2 オブジェ ジャングルズム	
	機械 18	装置 15 装置 5 X線装置 起爆装置 舞台装置 発電装置 照明器具 2 絞首台 フィルム ラジオ TV 乗物 3 船 豪華客船 ミカド-やシビック	
抽象的対象	抽象	芸術 11 ムンダニ だまし絵 絵画 テーブルの絵 エッシャーの絵 ピラミッド シゲルの彫刻 シュルレアリスト 映画 2 文化・言葉 12 彼岸 京女 輪廻 結界 御神体 接続詞 SF 詩のルーズ 3 「沈黙」「和魂洋才」 時 2 氷の輪 「1+1=3」 建築のかけら キリシヤ・イスラム 中国・日本	
	建築	各種建築 16 神社・寺 4 蔵 2 家 2 劇場 2 倉庫 2 材の 路面店 パビリオン 家屋のシルエットとビル影 建築空間 15 縁側 雁木 四阿 前庭 ロジアン ガレリア インテリア デー 部屋 日本古来の建築空間 アトリウム アルコブ 2 舞台 2 迷路 3 遺跡 2 井戸 2 塔 2 城 地下墳墓 (カコバ) 解体途中の建築 構築物 12 ロックエレベーター エッフェル塔 パティオのマルコポーロ ラムアラ ヴェンツァリッフェルトの建築的フォーム シゲルのミニマリズム 建築家の建築 6 格子 屏風 欄 2 家具 4 建築様式 7 近代建築 2 材料主義 ゴシックゲル 町家 キリシヤ民家	
建築的対象	都市	固有の都市 10 ヨーロッパ 各地の環境や空間 タコ市の アラスカ脈麗の市 演劇都市ロマ 元町商店街 京都三寧坂 丸の内 三軒 阿利カ村 クラフ 表参道・代々木公園・新宿御苑 一般的な街 14 街 11 もうひとつの街 2 街の一部 情景的都市 4 記憶の都市 ノスタルジック都市 周囲の様相 敷地をつくる 広場 11 広場 7 パティオ 街の中の広場 公開空地 原っぱ 都市要素 4 交差点 ゲート 標識 アラトフォーム 街路 12 街路 10 路地 トリコ	

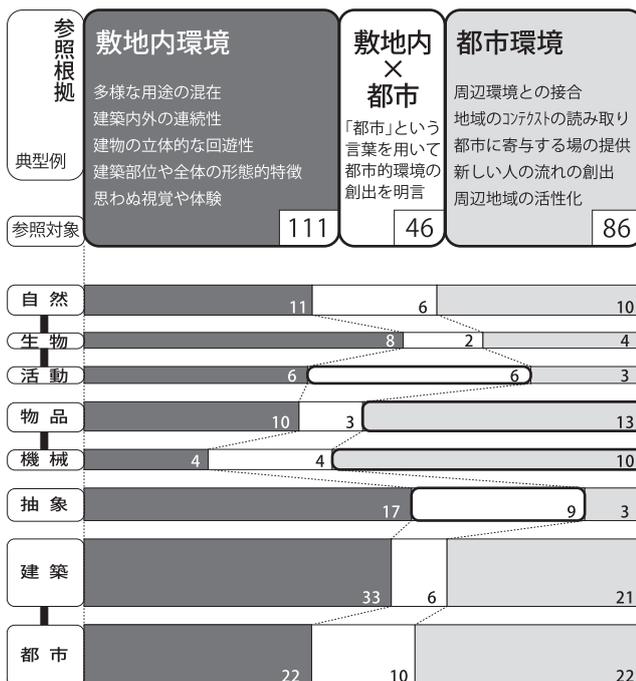


図3 参照対象と参照根拠の関係

のあふれる現代都市の一部となることを意図」(No.146-d)のように、都市という言葉を用いてマクロなレベルで建築内環境を構築するような根拠がみられ、建築家の理想的とする都市像が見出せる重要な内容が見出せる。

### 3-3 参照対象と参照根拠の関係

前節までに検討した参照対象と参照根拠の関係を検討したところ(図3)、[物品]、[機械]では【都市環境】が多くみられ、ここから、建築を都市の中におかれた物や機械として捉えることで周辺環境に対応させる考えが読み取れる。また[活動]、[抽象]では【敷地内×都市】が比較的多くみられ、ここから、夢や詩といったアナロジーにより建築を人間活動や文化に例えることで都市的な情景を建築内に示すものと考えられる。

## 4. アナロジー表現と都市認識の関係

### 4-1 資料毎の都市認識における参照根拠

2章で位置づけた資料毎の意味内容の組合せによる分類をもとに、都市認識を語る際に用いられるアナロジー表現の参照根拠を示した(図4)。この図から、〈物的〉認識と〈現象的〉認識では【敷地内×都市】は少なく、〈物的+現象的〉認識では比較的多いことが分かる。これはつまり、都市を複数の水準から語る建築家は、都市を射程にアナロジー表現を用いて、自身の建築に都市的状态を表現することが多いと考えられ、また、そのうちの大多数が《非限定》に否定的な認識をもつ資料に属するという特徴的な傾向がみられた。

### 4-2 資料毎の都市認識における参照対象

次に、各都市認識におけるアナロジー表現の参照対象を示した(図4)。この図より、〈物的〉認識と〈現象的〉認識では建築的対象が過半数を占め、また〈現象的〉認識では静物的対象が〈物的〉認識と比較して2倍近くみられ、なかでも[機械]の参照が多かった。一方、〈物的+現象的〉認識では生態的対象が多く参照され、建築的対象と抽象的対象は他と比べて少ないことが分かった。これらより、都市の物的側面のみ焦点をあてる場合には同じ分野である建築空間や構築物などのイメージを、現象的側面のみ焦点をあてる場合には建築群で構成される都市全体のイメージを参照することが多いのに対し、都市を複数の水準で同時に認識する建築家は、建築に関連した事柄よりも、人間活動などの生態的なイメージに代表される建築以外の世界に近づけて自身の建築を語る人が多いと考えられる。

### 4-3 建築家の考える都市イメージ

これらのことから、囲まれた外部空間をもつ商業建築では、物的あるいは現象的な都市環境のどちらを重視するかという建築家のスタンスから、都市が分析的に捉えられ、そのイメージを示すために参照される事柄がそれぞれ異なることが分かる。例えば物的な都市環境を捉えた上で示される特徴的な都市イメージは、図4の**ア**に示した森や海などの自然のダイナミズムに例えるような例が多く、現象的な都市環境を捉えた上で示される特徴的な都市イメージは、図4の**イ**、**ウ**に示した装置や広場など、都市機能を担うものに例えられることが多いといえる。また、囲まれた外部空間をマイクロコスモ的な世界を創出する場として捉えるか(図4典型例1)、街に付随する場として捉えるか(図4典型例3)という違いによっても、表出されるイメージが異なることが分かる。

### 5. 結

以上、囲まれた外部空間をもつ商業建築作品の設計論を題材に、建築内に創り出す都市イメージを都市認識とアナロジー表現の関係から検討した。都市認識は大きく、物的

内容と現象的内容との2つのまとまりで捉えた。アナロジー表現は、参照対象と参照根拠の水準から検討し、多岐にわたるイメージを位置づけた。そしてこれら都市認識とアナロジー表現との関係を検討した結果、都市を物的に認識しているか、あるいは現象的に認識しているかという建築家のスタンスにより参照される事柄に特徴がみられることが分かり、ひとつの水準から都市を認識する場合は建築に関連した事柄を多く参照するのに対し、都市を多義的に認識する建築家は、生態系や静物など建築以外の事柄を参照としたイメージを表出し、その根拠に建築空間にマクロな視野で捉えた都市的環境を創り出すことを考えていることが明らかになった。

註

- 1) 参考文献: キース・J. ホリオーク「アナロジーの力」新曜社
- 2) 商業が社会を牽引していた時代の傾向の読み取れる1960年代を始まりに、2010年現在までに発表された商業建築作品は639作品あった。そのうち、原則3辺以上を建物に囲まれた外部空間をもつものから、大規模都市開発を除いた156作品の作品解説文を資料対象とする。
- 3) 2章都市認識では、KJ法(参考:川喜田二郎「発想法」中央論社)をもとに、現状の都市環境に対する建築家自身の認識を、全156資料から203単位抽出した。
- 4) 複数の都市認識をもつ資料の中で、限定、非限定の両方の水準の認識をもつものは、非限定としてカウントした。

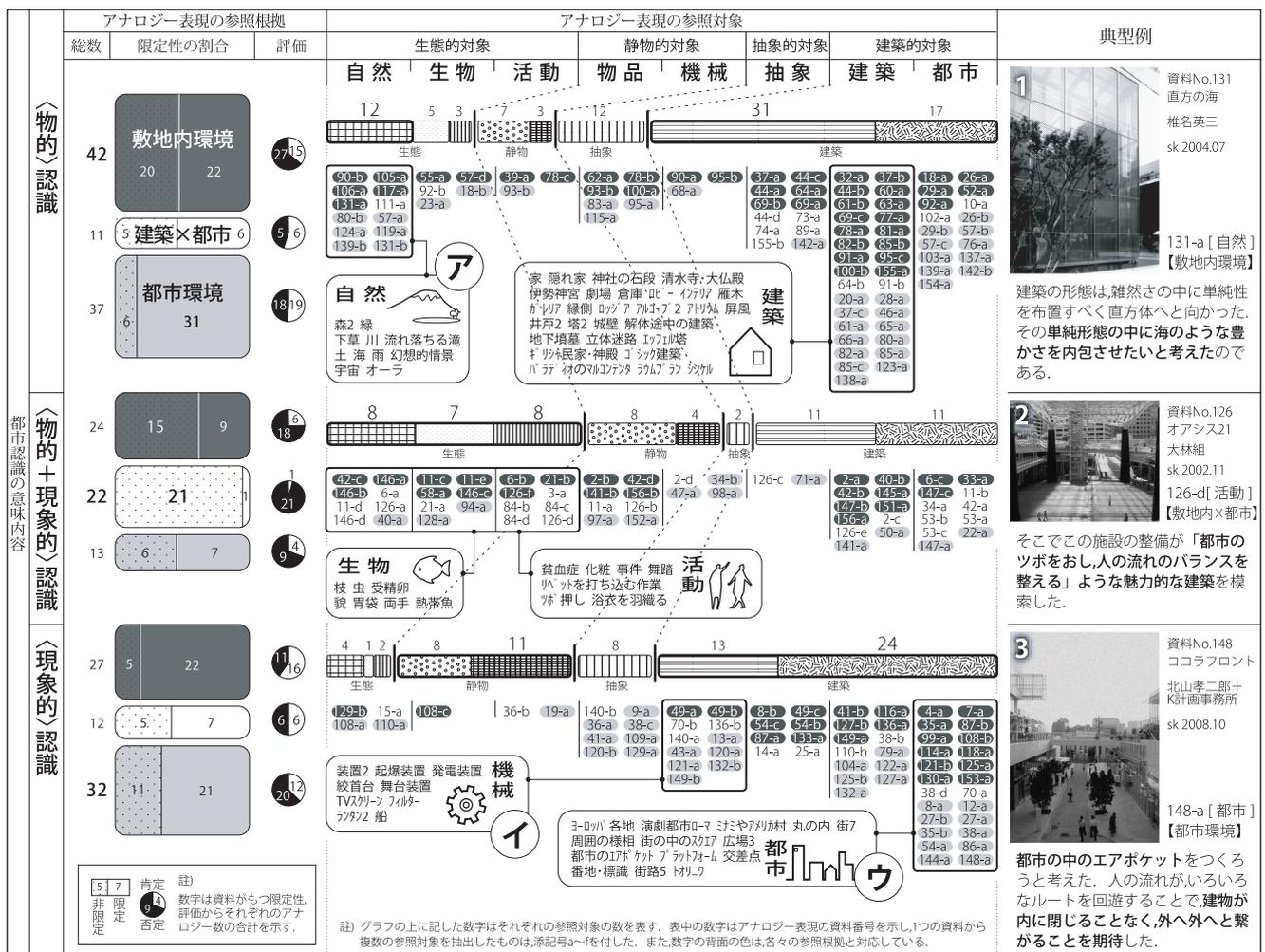


図4 アナロジー表現と都市認識の関係